

15. 右水腎水尿管を呈した虫垂周囲膿瘍の1例

藤原恭一郎, 永嶋 薫, 片海七郎
(君津中央)

75歳, 男性, 右下腹部痛を主訴として来院。subileusの改善後, 右水腎症の精査にて右尿管口より約7cmの部位から約5cmにわたる壁外性と思われる尿管の狭窄を認めた。CTにより認められた尿管狭窄の原因である後腹膜腫瘍は, 手術により虫垂炎に起因する膿瘍形成であると判明した。

16. 異所性尿管瘤の1例

長 雄一 (千葉県こども病院)

患者は4カ月女児。重篤な尿路感染にて, 某院より紹介される。IP等画像診断にて, 異所性尿管瘤と診断した。経皮的腎瘻造設にてドレナージ施行した。左上半腎機能悪いため, 術式は左上半腎尿管摘出とし, 7月21日全麻下手術を施行した。摘出した左上半腎は異形成を認め, 尿管は拡張, 蛇行していた。術後は瘤も消失, 尿路感染を認めず, 順調に経過している。

21. 神経因性膀胱に対する塩酸ブナゾシンの効果

東條雅季, 皆川秀夫
(成田日赤)

神経因性膀胱患者37例に対し塩酸ブナゾシンを投与してその効果を検討した結果, 全盤改善度では改善以上が脳型で55.5% (5/9例), 脊髄核上型66.6% (2/3例), 脊髄核下型60% (3/5例), 末梢型62.5% (10/16例)となり部位別の改善度にはほとんど差を認めなかった。副作用は頭のふらつき2例, 動悸息切れ1例, 軽度の尿失禁4例の計7例であったがいずれも自然消失した。

24. 腹部超音波検査で診断した小児膀胱移行上皮癌の1例

安田弥子, 村山直人, 大塚 薫
遠藤博志 (松戸市立)

症例は10歳男子。無症候性肉眼的血尿にて近医を受診し出血性膀胱炎の診断にて抗生剤の投与をうけるも症状軽快せず当科受診, 腹部超音波検査にて $\phi 9.4 \times 7.9$ mmの有茎性腫瘍と診断された。経尿道的腫瘍切除術施行。病理診断はTCC PTu Grade Iであった。小児および若年者の膀胱腫瘍の早期発見には腹部超音波検査が有用であると思われる。

28. 前立腺悪性中胚葉性混合腫瘍の1例

李 瑞仁, 佐藤信夫, 藤田道夫
(船橋市立医療センター)

32歳, 男性, 会社員。1989年4月頃より, 排尿困難出現, 5月26日飲酒後尿閉となり, 27日当科受診。前立腺は手拳大, 弾性軟, 表面平滑, 表在リンパ節触知せず。前立腺生検で非上皮性悪性腫瘍と診断され, 6月9日前立腺全摘, リンパ廓清術を行なった。8月頃より局所再発および肺転移をみとめた。摘出標本は $7.0 \times 7.5 \times 8.0$ cmであった。組織所見は平滑筋肉腫, 悪性軟骨組織像がみられ, これらの非上皮成分に混在し, 腺癌の像もみられた。これらすべて中胚葉由来とみなされた。

34. 糖尿病を合併した褐色細胞腫の1例

大木健正, 富岡 進, 川村健二
日景高志 (東京厚生年金)

症例は63歳男性。昭和61年近医で高血圧症と糖尿病を指摘され降圧剤内服中。平成元年7月15日肉眼的血尿出現, 近医受診しCTと内分泌学的検査から右副腎褐色細胞腫と診断され8月14日入院。血圧148/90mmHg, FBS 300mg/dl。血, 尿中カテコールアミンおよび尿中VMA高値。インスリン療法開始し, 9月12日手術施行。術後インスリンを要せず食事療法のみでコントロール可能となったが, 術後75g OGTTでは境界型の血糖曲線であった。

37. 小児黄色肉芽腫性腎盂腎炎の1例

齊藤範夫, 甘粕 誠
(鹿島労災)

症例は15歳男子。左腰背部痛, 肉眼的血尿を主訴に来院。IVPにて左無機能腎。CTにて左腎の変型萎縮, 左腸腰筋内膿瘍を認め膿瘍の穿刺培養にてproteusが分離された。左腎摘出術を施行し, 病理組織所見にて黄色肉芽腫性腎盂腎炎と診断された。小児に発生する黄色肉芽腫性腎盂腎炎は極めて稀で, 自験例は小児例としては本邦14例目と思われる。

38. 気腫性腎盂尿管炎の1例

橋本 敏, 松村 勉
(深谷赤十字)

持続性の発熱, 側腹部痛を主訴とする40歳, 女性が当科受診した。KUB, CT等にて腎部に一致したガス像を認めたため, 気腫性腎盂尿管炎と考え, 左腎摘出術施